

とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート

2021.1 January vol.54

11月定例議会

自然豊かな地方で安心の暮らしを築く

アフターコロナの生活、社会を考える

11月18日から12月15日まで定例議会が開かれました。議会では、新型コロナウイルス感染症患者を収容するプレハブ施設の建設などコロナ対策費の補正予算案など4件、農産物の種子および種苗の安定的な確保に関する条例など条例案12件などが可決成立しました。

地域の保健・医療・福祉の充実に向けて

飯南町での文教厚生委員会の調査の際に、医療・福祉は町の大きな産業として捉えられていることに、今後の中山間地域の活性化の一つの柱として注目しました。高齢化が進む中山間地域にあって、最後まで住み慣れた地域で天寿を全うしたいと思うすべての住民が、持病や障がいがあっても安心して過ごせるまちづくりには、保健・医療・福祉が整っていることが大事です。

介護に従事する人たちの処遇改善や働きがいのある職場づくりへの支援を、市町村と県が一緒に取り組む必要がある

知事 現在、第8期の介護保険事業計画の策定を進めており、市町村との意見交換を行いながら、事業者の人材確保、定着や働きやすい職場づくりへの支援などが進むよう、一緒に進んでいく。また、働きがいのある職場となるよう、採用後に職場内で新人職員をサポートするエルダー、メンターの養成や、職員のキャリアアップのための初任者研修、実務者研修の受講の支援などを行っている。

介護職場の処遇改善は、社会保障制度として国が責任を持つ

対応すべきものである。特に、来年度は3年に一度の介護報酬改定の年に当たるため、離島や中山間地域など条件不利地域でも持続可能な安定的な介護サービスを提供できるように、介護報酬の引き上げや、国が責任を持つことを行っている。医療従事者との交流などを行っている。医学生、看護学生などに向けては、県内就職につながるよう、病院それぞれの特徴や現役職員からのメッセージをまとめた冊子を使ってPRをしている。

介護職員では、中高生の夏休み介護職場体験、小学生親子向けの介護体験などの機会を設け、また、介護の日のイベント等の場で幅広く県民の皆さんへの普及啓発や、若い人に

歩いて暮らせるまちづくり

高齢になってもできるだけ在宅で、地域の人たちのつながりを持ちつつ、行きたいところに出かけ、介護や診療が受けられ、公共サービスを利用しながら暮らせるまちづくりが必要です。そのためには、保健・医療・福祉の公共サービスの充実と、みんなが集い交流を深めるなど生きがいづくりの場の整備、公共交通の確保などを進めていくことも、サービスが一定程度集積した地域の周辺で暮らすことができる高齢者の住宅の確保も検討していくべきことです。

県市町村も住民の皆さんと一緒に公共交通の予約等の基本のシステムを作り、地域で応用できる形を考えるべきだ

知事 県内他の地域でも、実情に応じて必要な機能を設定変更して導入することが可能。また、システムの導入に当たっては、井田地区では、地域住民に、アプリの使い方などの勉強会を開催する予定。

このようなシステムは公共交通の利便性の向上や効率的な運行に資する重要なものである

知事 市町村がICT(情報通信技術)を活用し、地域住民と一緒に地域公共交通の再構築を図る場合は、実証実験や本格運行などに必要な支援を行っていく。

初春

新春にあたり 皆さまのご多幸をお祈り申し上げます



昨年からの新型コロナウイルス感染症は一向に衰える様子もなく感染が広がっています。コロナ禍の中、議会でも感染対策についての議論が続いています。決定的な治療法もいまだない中、まずは徹底した感染防止に取り組み、今後の私たちの生活、社会のあり方について考えるべき時です。

人口の地方への分散を進め、国内、地域内で経済が回る仕組みをつくり、どんな時でも安定した生活が続けられる社会、誰もが笑顔で暮らせる島根づくりを目指して、皆さまのご意見をお聴きし、議会での議論を進めてまいります。



県内の他の地域でも、実情に応じて必要な機能を設定変更して導入することが可能。また、システムの導入に当たっては、井田地区では、地域住民に、アプリの使い方などの勉強会を開催する予定。

このようなシステムは公共交通の利便性の向上や効率的な運行に資する重要なものである。市町村がICT(情報通信技術)を活用し、地域住民と一緒に地域公共交通の再構築を図る場合は、実証実験や本格運行などに必要な支援を行っていく。

島根県内のサービス付き高齢者向け住宅の整備状況について

知事 県内では、令和2年10月末時点で52施設1827戸。地域別の内訳は、町村部にはなく、県東部の4市で41施設1520戸、県西部の4市で11施設307戸である。

国では、高齢者の単身世帯の増加による空き家の増加や住まいた生活基本計画の見直しに着目しているが、県ではどのような視点を持って計画の見直しを図られるのか。

土木部長 現時点では、全国計画の見直しに当たって設定されている3つの項目、居住者、地域、まちづくり、ストック、を柱に据え、現状の把握と分析を行い、検討を進めていく。

見直しに当たり、様々な分野の有識者で構成する懇話会を組織し、取り組んでいく。

知事 国が進めるデジタル庁設置、コロナ禍におけるデジタル化の加速についての所見を。

知事 デジタル化の推進により時間的、距離的な制約の解消が期待でき、東西に長く離島を有する本県でも大きなメリットとなり、県民生活の利便性が高まるものと期待する。

一方、スマートフォンを持たない人やその操作に困難を感じる人、個人情報漏えいなどセキュリティに不安を持つ人など、必ずしも全ての県民、国民がデジタル化に即対応できるわけではない。書面や対面を必要とする人への対応とデジタル化の推進を両立させながら、県民生活の利便性の向上や業務の効率化を進めていくことが必要であると考えます。

地域振興部長 大田市井田地区で現在開発中のシステムは、

向けて介護の仕事の魅力職員へのインタビューを通してPRする動画を作成し、SNSを活用して情報発信している。今年度は中高生や保護者向けのパンフレットを作成し、配布する。引き続き積極的に発信をしていく。

発行者 角 智子 〒690-0063島根県松江市寺町67-23
TEL.(0852)28-8880 FAX.(0852)28-8881
E-mail sumi@tomachan.net
U R L http://www.tomachan.net/

とまちゃん通信

鳥取県議会 会派民主と合同研修会

島根の活力を生む地域の力を見て歩く
毎年、鳥取県議会 会派民主と合同研修会
と行っている研修会を、今年
は、鳥取県議会が担当して行
いました。

ICT活用教育

コロナ禍におけるICT活
用教育について、安来市の情報
科学高校鳥居俊孝校長はじめ
担当教員の皆さんからお聞き
しました。高校では、コロナ対
策で休校になり、オンライン授
業を実施するために、他校です
でに行われていたオンライン
授業を見学し、機器の活用、効
果的な生徒とのやり取りなど
を学び準備を進めました。そし
て、プログラミングをオンライ
ン授業で実施しました。

今回は、情報担当の教諭が授
業を行いました。今後進めて
いくにはすべての先生が使い
こなせるよう、研修も必要です
し、子どもたちの研修も必要で
す。また、家でも学校でも使え
る教員一人一台端末が必要で
すし、ICT教育を実施してい
くには、教材だけでなく、その
ための人材も必要です。

えーひだカンパニー

午後からは、広瀬町比田の
「えーひだカンパニー株式会社」
の地域づくりの取り組みに
ついて調査しました。組織のタ
テ・ヨコのつながりを生かし
て、子どもから高齢者まで多く



比田マーケットの皆さんと

の住民が参加する活動を実践
しています。この事業を立ち上
げた取締役の川上義則さんは、
常に話し合いを重ねながら事
業を進めてこられたことを熱
く語られました。もともとは食
堂を経営されており、今もその
仕事をしながら地域づくりの
中心になり、地域の住民と地域
外からの移住者が一緒になっ
て活動を進めています。

島根の教育魅力化

松江市に帰ってからは、島根
の畜産の取り組みを農畜産課
畜産室長の加地紀之さんから
お聞きし、一日目の研修調査を
終わりました。

二日目午前中は、高校魅力
化の取り組み、関係人口づく
りの取り組みについて各担
当者から説明を受けました。

高校魅力化については、地
域・教育魅力化プラット
フォーム代表理事の岩本悠
さんと雲南市キャリア教育
政策グループマネージャー
の福島勇樹さんから説明が
ありました。海士町島前高校
で岩本さんが始められた高校
魅力化は今や県内全高校、さ
らには義務教育にも広がり、
島根の教育魅力化の取り組み
になっていきます。それぞれの
地域で特色ある教育に地域住
民、企業も巻き込んで進めら
れています。

また、関係人口づくりは、島
根県しまね暮らし推進課長芳
賀健人さんから説明を受けま
した。「しまことアカデミー」の
取り組みを通して島根に関係
を持つ人づくりが進められて
います。
演劇が地域の活力を生む
八雲町しいの実シアターの

指定管理を受けているNPO
法人あしづえの園山代表か

らお聞きした「見えないもの、
聞こえないものを感じ取るこ
うなこと、より深い感動とこ
もに得たときは、さらに生き
る活力を得ることができると
いうお話は、振り返ってみ
て、私の中にもたびたびあっ
たなと感じることができま
す。しかし、周りを見てい
ると、昨今はうわべだけ、見える
もの聞こえるものだけで物事
を判断する傾向があるように
感じることも度々あり、ゆと
りを持つこと、感性を磨くこ
とが必要だと感じています。
子育て、教育の中でも、もっ



岩本悠さんから魅力化について聞く

文教厚生委員会 県内調査

地域でいつまでも元気に

10月15、16日の2日間、文
教厚生委員会の調査チーム
「高齢者が生きがいを持って
活躍できる島根に向けて」
生涯を通じた健康づくり・生
きがいづくり」のもと、雲
南市、邑南町、飯南町で調査
をしました。

雲南市内3ヶ所の自治協
議会、一宮自主連合会、阿用
地区振興協議会、躍動と安ら
ぎの里づくり鍋山で、高齢者
の健康づくり集いの場づく
りについて各地でお聞きし



劇団あしづえの園山代表とともに

地域主体の活動で、それ
ができてるのが雲南市
の各自治協議会です。そ
れぞれ地域の振興計画を
作り、それに基づいた安
心して暮らせる地域づく
りを進めるために、日頃
からの地域の人たちとの
つながりを作る活動がで
きています。

と五感を養うこと、コミュニ
ケーション力を養うことの必
要性があり、あしづえの地域で
の取り組みがこれらを支えて
います。地域に根差し、地域と
ともに活動されていることが
地域の活力になっていると感
じました。

文化や伝統・芸術を守り育て
る政治でなければならぬの
ですが、今の経済優先の政治に
危惧しています。劇団あしづえ
のように地域で頑張る力が地
域を盛り立て、島根県の原動力
になっていきます。今回の講義で
得たものを、これからの私たち
の議会活動につなげていきま
いと思えます。

なかな

なかな行政の手が届か
ないところに支援の手をさ
しのべることができるとが



阿用地区の皆さんと体操

鍋山地区では各種の補
助金や委託料を確保し

て、その事業を地域の人たち
を雇いあげて実施し、高齢者
の生きがいづくりを行って
います。安定した仕事があり、
それを任せられているという
ことが地域の人の活力とな
り、活動が発展しているこ
ういふことを実感しました。

ふるさとの魅力を伝える

調査2日目は、邑南町市木
地区で、公民館を拠点に地域
活動を行っている皆さんから
話を聞きました。市木地区
では、地域の子どもの増やす
ために地域の魅力発信をする
ことを目的に地域の歴史や文
化財などをカルタにして紹介
しています。そして、このカル
タをもとにした活動を行うふ
るさと学芸員養成塾を立ち上
げ、子どもたちや地域のの人
たちにふるさとの魅力を伝える
活動をしています。

また、ビッグひな祭り文化
展の開催や、住民自らが企画
して取り組む運動教室や認
知症予防教室などの自主教
室等を行い、地域の活性化に
取り組んでいます。高齢者の
皆さんの参加を促すには飲
食を共にする会を企画する
ことが一番と話されました
が、いかに高齢者の皆さんの
参加を促すかには苦心して
おられるようでした。



市木地区の皆さんと議員団

午後からは飯南町立病院
の高齢者支援の取り組みに
ついて調査しました。飯南町
では、保健・医療・福祉が連携
した地域包括支援システム
を構築しており、役場、町立
病院、社会福祉協議会がしっ
かりとタッグを組んで取り
組んでいます。

医療福祉を地域の産業に

「町では保健・医療・福祉の
事業従事者の人口に占める
割合は高く、医療・福祉を地
域の産業として捉え、取り組
んでいる」と言われたことは
印象的でした。地域で皆さん
が最後まで安心して暮らし
ていくには、医療・福祉の充
実が必要で、それに携わる人
たちも安心して働ける環境
を作っていくことです。中山
間地域の人口減少を止める
一つが、こうした職種で働く
人たちの確保していくこと
ではないでしょうか。

また、かかりつけ医となる
診療所、病院が地域からなく
なり、中核となる病院から医
師を派遣して診療所を確保す
るなど、公的病院の役割はま
ず重要です。そして、病状受診のための移動
手段の確保も必要です。地域
から医療をなくさないための
取り組みもしっかりとやらな
ければなりません。